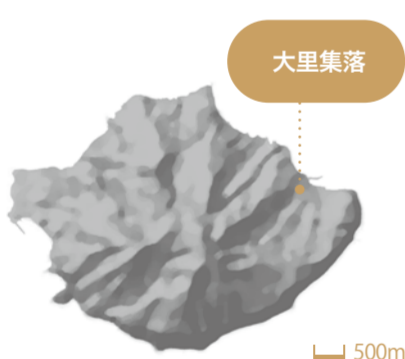




三島村・鬼界カルデラジオパーク 2021 鹿児島県三島村カレンダー



大里

ガラス瓶と島民の記憶

いま考古学には「パブリック・アーケオロジー」という研究成果と社会の関わりを重視する考え方があつた。この考え方は、大里の考古学調査でも実践されて興味深い成果をあげている。

鹿児島国際大学の中国聡研究室は、二〇一四年と二〇一七年に大里集落を調査した。同研究室の平川ひろみさんは、現代の時代の発掘品にも目を向け、発見した瑠璃色のガラス小瓶を調べた。八〇歳代の大里出身者によれば、これは「神薬」と呼ぶ置き薬の容器らしい。一九四〇年代のものだと推測される。

その調査で「子供時代、腹痛時にお湯に混ぜて飲んだこと」「常備薬で、大人も携帯して頭痛のときに舐めたこと」「少し甘い味だったこと」「戦前まで、硫黄島の薬売りが黒島に来ていたこと」などがわかった。かつて黒島では、中世の石鍋を削って腹痛や火傷の薬にする民間療法があつたという。神薬の話とともに、医療機関がない時代の苦勞がしのばれる。

また、葉売りの特徴を硫黄島出身者に話したところ、偶然本人の祖父だつた。「神薬瓶の調査を通じて、硫黄島と黒島の歴史が繋がつた瞬間の感動は忘れられません」と平川さんは語る。古い物には、失われた生活風景を、当事者たちの口から鮮やかに蘇らせる力がある。

出典 順不同 敬称略

表紙『ガラス瓶と島民の記憶』
【取材協力】平川ひろみ（鹿児島国際大学）
【写真提供】平川ひろみ（鹿児島国際大学）
【参考文献】平川ひろみ．（2018）．「近現代考古資料としてのガラス瓶と島民の記憶：三島村黒島大里遺跡出土遺物の考古学的記録、オーラル・ヒストリー、アイデンティティの再構築」．『日本情報考古学会講演論文集＝Papers and proceedings of Japan Society for Archaeological Information』, 20, pp. 12-17

1月『馬方踊り』
【取材協力】山崎晋作
【写真提供】山崎晋作
【参考文献】三島村誌編集委員会（編）（1990）『三島村誌』．

2月『大里の土器』
【取材協力】鹿児島国際大学考古学研究室（中国聡研究室）・三島大里学園
【写真提供】鹿児島国際大学考古学研究室（中国聡研究室）
【参考文献】中国聡（2010）『大里小・中学校保管の考古学資料について－土器を中心として－』鹿児島国際大学化学部中国聡 / 三島村教育委員会（編）（2015）『黒島平家城遺跡；大里遺跡ほか：村内遺跡発掘調査等事業報告書』『三島村埋蔵文化財調査報告書，第1集』 / 三島村誌編集委員会（編）（1990）『三島村誌』．

3月『葉蘭（はらん）』
【取材協力】寺田仁志（鹿児島大学）
【写真提供】寺田仁志（鹿児島大学）
【参考文献】「葉蘭」. goo 辞書（提供元・デジタル大辞泉）<https://dictionary.goo.ne.jp/word/%E8%91%89%E8%98%AD/#jn-179984>（参照日 2020年10月12日）
「ハランとは」. 育て方図鑑 | みんなの趣味の園芸 NHK 出版．<https://www.shuminoengei.jp/m-pc/a-page_p_detail/target_plant_code-742>（参照日 2020年10月12日）

4月『赤壁』
【取材協力】山崎晋作
【写真提供】山崎晋作・大岩根尚・三島村
【参考文献】三島村誌編集委員会（編）（1990）『三島村誌』． / 小林哲夫．（2008）．「P46 鬼界カルデラ・竹島の火山地質（ポスターセッション）．日本火山学会 2008 年秋季大会」．『日本火山学会講演予稿集』，2008 巻，セッション ID P46, p. 138
【テキスト監修】大岩根尚

5月『神山（冠岳）』
【取材協力】鹿児島大学 寺田仁志・日高寛・米盛レイ子
【写真提供】上堂泰輔
【参考文献】寺田仁志，立久井 昭雄．（2017）．「神山にタブノキの巨木林があるトカラ列島平島の植生」．『鹿児島県立博物館研究報告』，36, pp.39-71．

6月『学校の門（竹島の道）』
【取材協力】山崎晋作
【写真提供】山崎晋作・三島村
【参考文献】三島村誌編集委員会（編）（1990）『三島村誌』．

7月『ビンゲの唐揚げ』
【取材協力】川野静・徳永博子・重藤亜貴
【写真提供】徳永博子
【参考文献】「オヤビッチャ」.公益財団法人黒潮生物研究所．<https://kuroshio.or.jp/creature/%E3%82%AA%E3%83%A4%E3%83%93%E3%83%83%E3%83%81%E3%83%A3/>（参照日 2020年10月12日）
「オヤビッチャ」. 沖縄美ら海水族館．<https://churaumi.okinawa/fishbook/00000098/>（参照日 2020年10月12日）

8月『逆松と硫黄島の盆』
【取材協力】安永瞳
【写真提供】荒木真帆・三島村
【参考文献】三島村誌編集委員会（編）（1990）『三島村誌』． / 小畑祐一．（2015）．「柱松の研究」．

9月『片泊の遺跡』
【取材協力】鹿児島国際大学考古学研究室（中国聡研究室）・山田和広
【写真提供】鹿児島国際大学考古学研究室（中国聡研究室）

【参考文献】三島村教育委員会（編）（2015）『黒島平家城遺跡；大里遺跡ほか：村内遺跡発掘調査等事業報告書』『三島村埋蔵文化財調査報告書，第1集』 / 鹿児島国際大学考古学研究室（中国聡研究室）（編）（2015）『南方世界への窓口 鹿児島 鹿児島国際大学考古学研究室（中国聡研究室） / 中国聡（2017）『大里遺跡発掘調査 現地説明会資料』鹿児島国際大学考古学研究室（中国聡研究室）

10月『車輪梅（シャリンバイ）』
【取材協力】折田恵美子・樋渡円・上国料好子
【写真提供】三島村
【参考文献】「車輪梅」. goo 辞書（提供元・デジタル大辞泉）．<https://dictionary.goo.ne.jp/word/%E8%BB%8A%E8%B3%AA%E6%A2%85/#jn-102799>（参照日 2020年10月12日）

11月『黒島みかん』
【取材協力】日高寛
【写真提供】三島村
【参考文献】三島村誌編集委員会（編）（1990）『三島村誌』．

12月『硫黄島の霜月祭』
【取材協力】安永瞳・折田大輔
【写真提供】三島村
【参考文献】三島村誌編集委員会（編）（1990）『三島村誌』．



竹島

馬方踊り

竹島で正月二十一日と二十二日に女性が抱瘡(天然痘)除けの踊りを聖神社に奉納する。一七九四年(寛政六年)に始まった。今は踊り手不足で休止中。

祭りの一週間前、拝殿横に、当日にお伊勢様を移すための祠を立てる。拝殿正面には紅白幕で踊り場を設ける。昔は幕がなく笹竹とアケビや椎木の枝で囲った。

踊手は、白い浴衣に博多帯を締めて、背に脇差をさした「旦那」と呼ばれる踊り子が二人。着物に羽織の踊り子数人。今は地区で用意した着物で踊る。題目は「めでたい」「神はお伊勢」「馬方」「馬方」の踊りでは「旦那」と呼ばれる踊り子が、帯を馬の手綱にみたてて踊る。

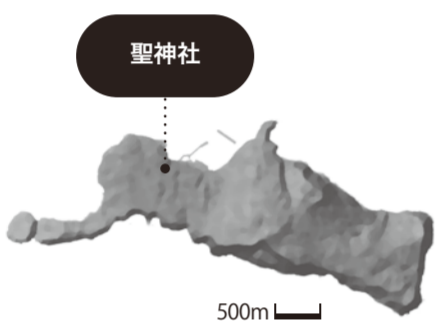
歌が一つ終わると「横目」という男の旦那が登場する。紋付袴と髷で変装して身体をそらせて歩く。手には「東西棒」と呼ぶモクタチバナをもつ。東西棒は、厄除に枝先を尖らせて赤や青に塗る。横目は観客をのしりながら笑わせ、見物席を整理する。

思い出話

「昔はみんなお弁当持参で神社で食べていました。婦人会の踊らない人は正月の飾り餅をぜんざいにして配っていました。」

竹島地区七〇代女性

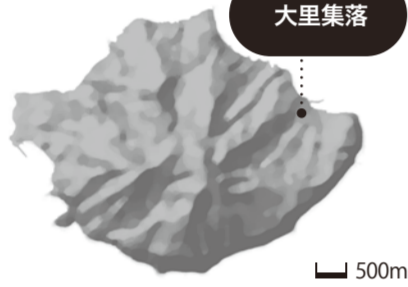
1



日	月	火	水	木	金	土
27	28	29	30	31	1 元日 旧 11/18	2 旧 11/19
3 旧 11/20	4 旧 11/21	5 旧 11/22	6 旧 11/23 ●下弦	7 旧 11/24	8 旧 11/25	9 旧 11/26
10 旧 11/27	11 成人の日 旧 11/28	12 旧 11/29	13 旧 12/1 ●新月	14 旧 12/2	15 旧 12/3	16 旧 12/4
17 旧 12/5	18 旧 12/6	19 旧 12/7	20 旧 12/8	21 旧 12/9 ●上弦	22 旧 12/10	23 旧 12/11
24 旧 12/12 31 旧 12/19	25 旧 12/13	26 旧 12/14	27 旧 12/15	28 旧 12/16	29 旧 12/17 ○満月	30 旧 12/18



2



大里地区六〇代男性

「かつて校長先生は神様の次に偉い存在でしたので、知らないものを拾えば先生に預けたものです。」

思い出話

近年、中国教授は黒島で遺跡調査をしており、大里集落で中国の●寧波(にんぱ)産の瓦を発見している。この瓦は十二世紀頃の黒島に中国様式の宗教施設があったことを示す。同じ型で抜いた瓦が博多にある。中国と黒島の交流は記録がなく、日宋貿易の実態を探る鍵として注目されている。

この他に縄文時代後期、約四千年前の●市来式(いちきしき)土器もある。沖繩、九州全域で出土する有名な型で、なかには屋久島の鉱物組成をもつ土器もある。黒島にあった地域間交流の様子がうかがえる。

二〇〇九年に鹿児島国際大学の中國聡教授が分析して、資料から縄文時代早期の●塞ノ神式(せのかんしき)土器を発見した。カルデラ噴火前の七五〇〇年前の三島村最古の土器で、噴火直前に黒島に人がいたことを証す。

大里の土器

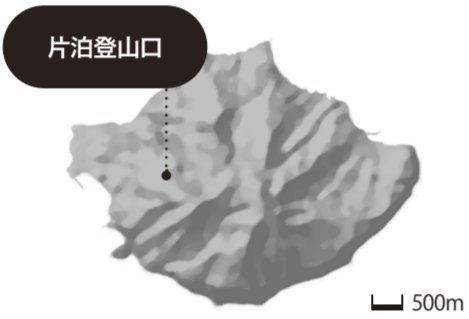
大里小中学校には石器や土器の資料がある。その多くは住民の寄贈と先生や生徒が校門脇で採集した資料で成る。

大里

日	月	火	水	木	金	土
31	1 旧 12/20	2 旧 12/21	3 旧 12/22	4 旧 12/23	5 旧 12/24	6 旧 12/25
7 旧 12/26	8 旧 12/27	9 旧 12/28	10 旧 12/29	11 旧 12/30 建国記念の日	12 旧 1/1 新月	13 旧 1/2
14 旧 1/3	15 旧 1/4	16 旧 1/5	17 旧 1/6	18 旧 1/7	19 旧 1/8	20 旧 1/9 上弦
21 旧 1/10	22 旧 1/11	23 旧 1/12 天皇誕生日	24 旧 1/13	25 旧 1/14	26 旧 1/15	27 旧 1/16 満月
28 旧 1/17	1	2	3	4	5	6



3



「畑仕事で葉蘭の根もとを掘って花を見つけた。撮影日は九月末です。咲く時期がわからないので貴重な出来事でした。」
鹿兒島市六〇代 男性

思い出話

葉が大きく頑丈で匂いもないため皿の役割もする。そのため薩摩の武家屋敷には必ず植えてあった。右中上の写真は旧島津氏玉里邸庭園の葉蘭。また寿司では葉蘭を包丁で細工して飾りする。弁当の「パン」は、その飾りを模したもの。

葉は長さ三〇〜五〇cm程度で硬くてつやがある。森の地表面に大柄な葉を並べて群落を作る。花は肉質で地面近くに咲く。右上写真では右上側に実もみれる。花粉の媒介は虫が行うと思われる。

葉蘭(はらん)

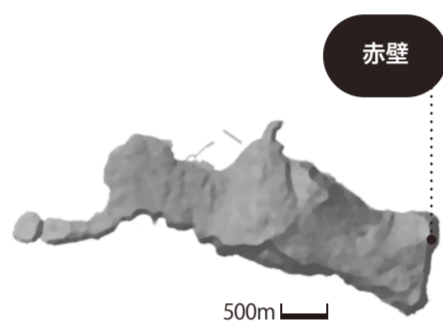
片泊

黒島は三島のなかでも島が古く植物が多様である。また、地理的な特性から本土で自生しない植物も多く、葉蘭はその一つ。名前は中国語の「馬蘭(ばらん)」に由来し、中国原産とされていた。しかし鹿児島大学の研究で、黒島、諏訪之瀬島、鹿兒島西方の宇治群島が原産と判明した。特に黒島は世界でも珍しい大きな群落がある。右下写真「片泊登山口」は取材地。

日	月	火	水	木	金	土
28	1 旧 1/18	2 旧 1/19	3 旧 1/20	4 旧 1/21	5 旧 1/22	6 旧 1/23 ● 下弦
7 旧 1/24	8 旧 1/25	9 旧 1/26	10 旧 1/27	11 旧 1/28	12 旧 1/29	13 旧 2/1 ● 新月
14 旧 2/2	15 旧 2/3	16 旧 2/4	17 旧 2/5	18 旧 2/6	19 旧 2/7	20 旧 2/8 ● 春分の日
21 旧 2/9 ● 上弦	22 旧 2/10	23 旧 2/11	24 旧 2/12	25 旧 2/13	26 旧 2/14	27 旧 2/15
28 旧 2/16	29 旧 2/17 ○ 満月	30 旧 2/18	31 旧 2/19	1	2	3



4



赤壁

竹島地区四〇代男性

「小学生の頃に遠足で行きました。ロープで垂直に降りる山道がとても怖かったです。その何年後かに大型貨物船が座礁し、お菓子満載のコンテナが「とし」に打ちあがり、大量のポテトチップスとおまけのカードを拾いに行きました。当時、お菓子とカードに困りませんでした。」

思い出話

竹島で赤壁のある海岸一帯を「とし」と呼ぶ。赤い地層と青い海の対比は鮮やかで、その景観は集落では見られない。そのためか、たまに遠足の目的地となった。遠足では魚を釣って味噌汁にしたり、宝探しや伝言ゲーム、探検などして楽しんだという。写真は二〇一八年のジオパーク講座の様子。

一方、鬼界カルデラ噴火より古い地層はそれほど注目されないが、見事な地層が見られる。竹島の東海岸、高平山の麓にある「赤壁」がそれである。鉄分の酸化で赤くなった地層からは、激しい噴火や地中を上昇してくるマグマの様子が読み取れる。

竹島と硫黄島は巨大火山である鬼界カルデラの一部である。竹島の港や校舎の裏手などにはカルデラの大噴火の様子をきざむ地層がみられ、これを調べるため頻繁に研究者が訪れている。

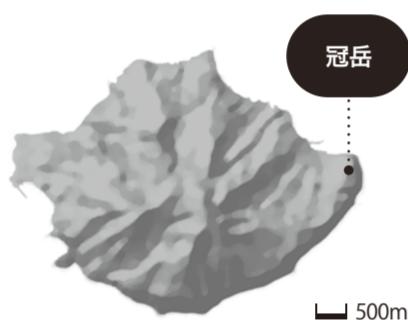
赤壁

竹島

日	月	火	水	木	金	土
28	29	30	31	1	2	3
旧 2/23	旧 2/24	旧 2/25	旧 2/26	旧 2/27	旧 2/28	旧 2/29
4	5	6	7	8	9	10
旧 2/23	旧 2/24	旧 2/25	旧 2/26	旧 2/27	旧 2/28	旧 2/29
11	12	13	14	15	16	17
旧 2/30	旧 3/1	旧 3/2	旧 3/3	旧 3/4	旧 3/5	旧 3/6
18	19	20	21	22	23	24
旧 3/7	旧 3/8	旧 3/9	旧 3/10	旧 3/11	旧 3/12	旧 3/13
25	26	27	28	29	30	1
旧 3/14	旧 3/15	旧 3/16	旧 3/17	旧 3/18	旧 3/19	



5



大里地区八〇代 女性

「私のお婆さんによれば冠岳の頂上には池があつてタニシもいたそうです。昔の山火事で池は消えました。炭焼きが盛んな頃でも、冠岳の木を切る山師は誰もいませんでした。」

思い出話

大里の冠岳でも自然物の持ち出しは禁じられており、冠岳は神山だと考えられている。そのため冠岳は現在も自然植生を保持しており、他の山と木の種類や大きさが明らかに異なる。日本は近代の開発で多くの自然植生を失ってきた。そのなかで神山は自然植生を守り、次世代に継ぐべき貴重な文化財となっている。

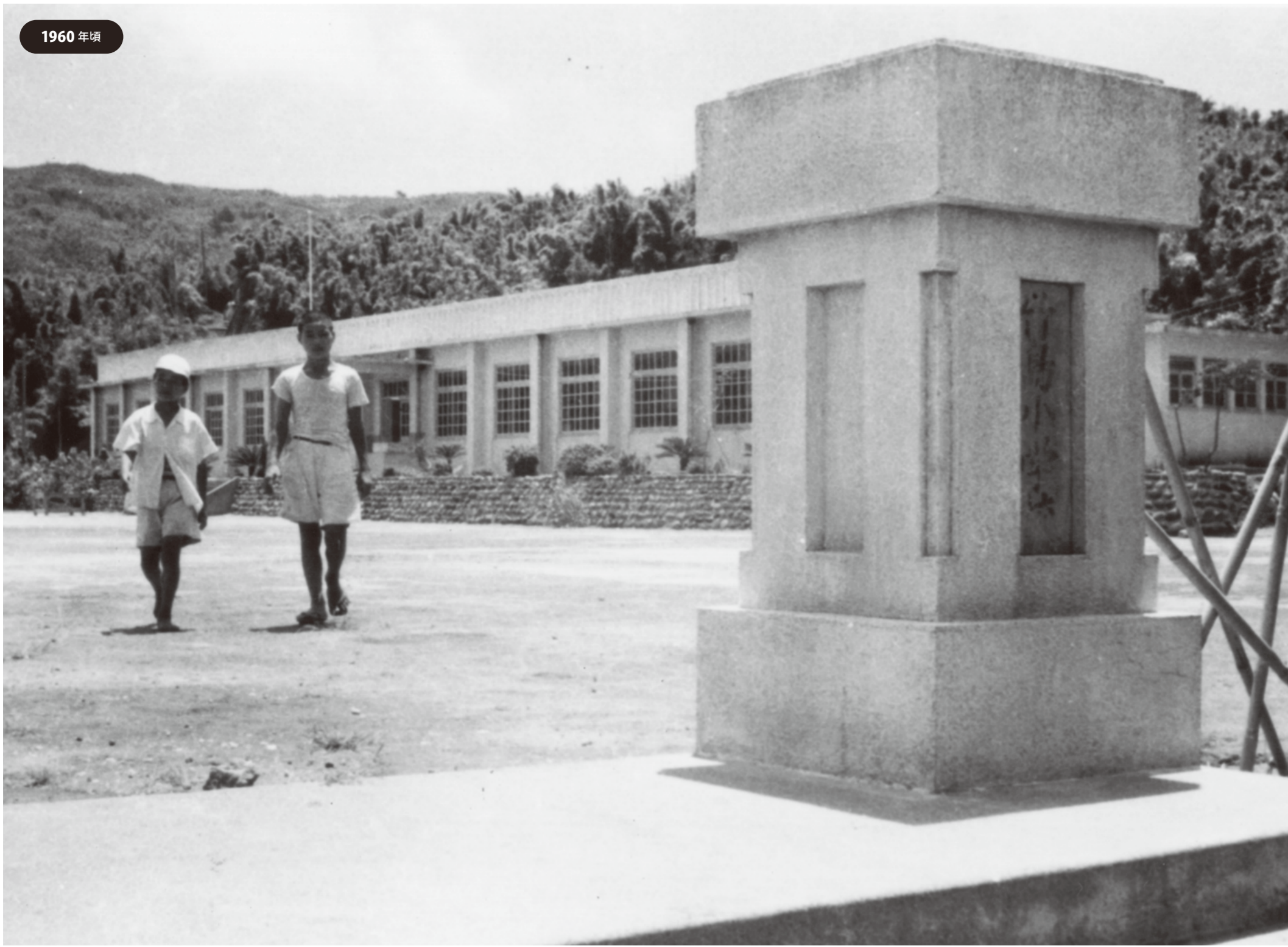
山や森は聖地となつて樹木の伐採や水質汚染を防ぎ、結果、人々の生命を守り、地域文化を育んだ。昔の人々は経験的に、樹木の伐採が急傾斜地の土砂崩れを呼ぶことや、森林に貯水能力があることを知つていたと推察される。

南九州から沖縄にかけて、集落付近の山や森を神聖な場として、樹木の伐採や落葉落枝の採集を禁じる文化がある。聖地の呼び名は、指宿市・錦江町・南大隅町などでは「モイドン」、種子島で「ガロウ山」、屋久島で「奥岳」、中之島・悪石島・宝島・奄美大島などでは「神山」、沖縄・八重山では「御嶽（ウタキ）」となる。

神山(冠岳)

大里

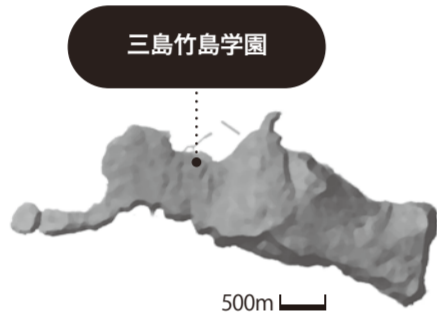
日	月	火	水	木	金	土
25	26	27	28	29	30	1
2	3 憲法記念日	4 みどりの日	5 こどもの日	6	7	8 旧 3/20
9	10	11	12 新月	13	14	15
16	17	18	19	20 上弦	21	22
23 旧 4/12	24 旧 4/13	25	26 満月	27	28	29
30 旧 4/19	31 旧 4/20	旧 4/14	旧 4/15	旧 4/16	旧 4/17	旧 4/18



1960年頃

1980年頃

6



竹島地区七〇代男性
 この頃、大工だった島出身者が島の工事を下請けして、その工事は若者の収入源の一つでした。塀作りの時はコンクリートを練る重い道具を皆で人力で運んで大変でした。

思い出話

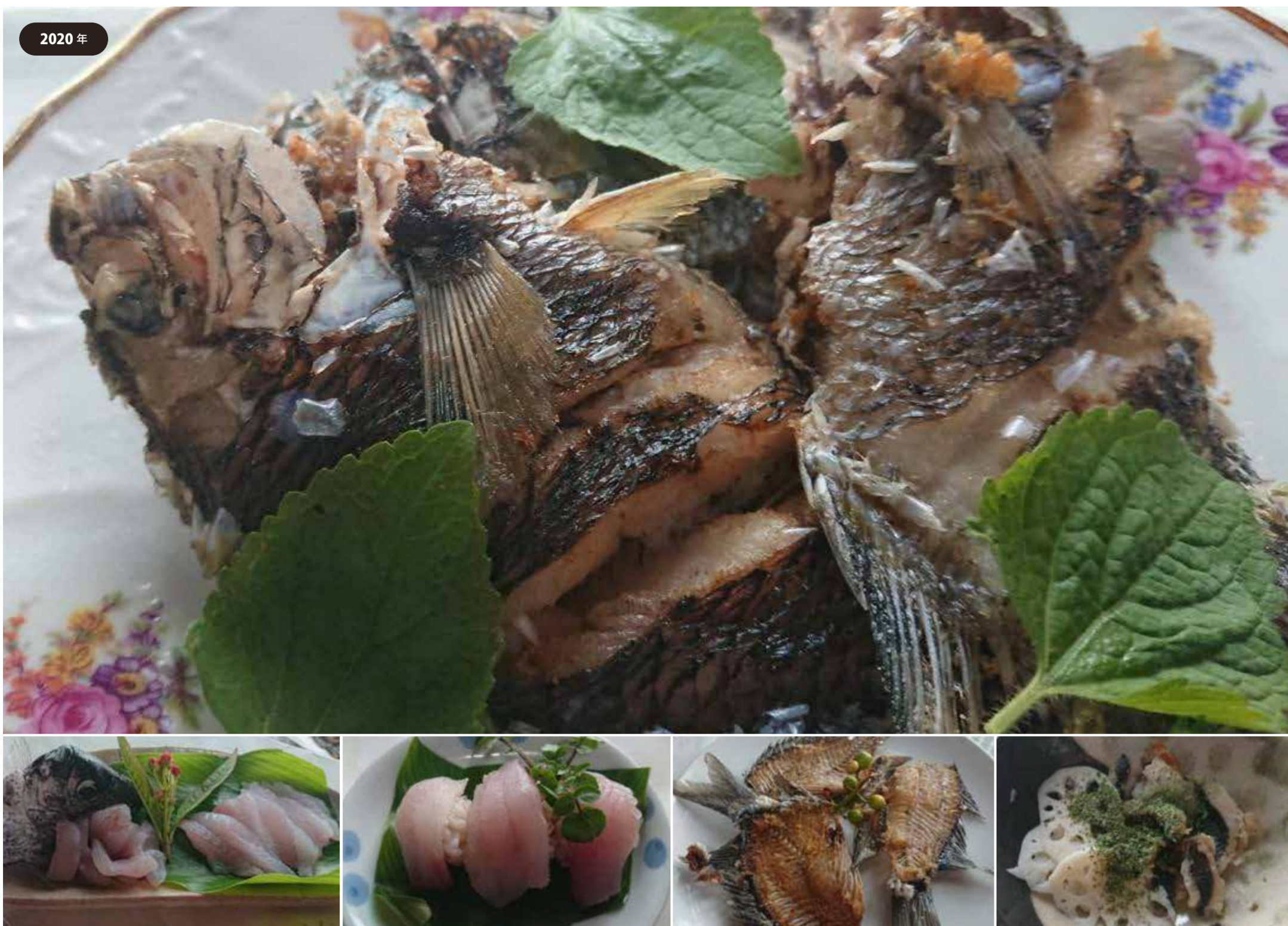
この頃、学校の正門も従来の危険な山道でなく舗装道路の方へ移動した。そして子供たちが舗装道路を使うように、ハマヒサカキの垣根をブロック塀にかえた。次第に山道の利用は減ったが塀の扉から港への道は長く使われたという。現在は学校の畑へ行く道となっている。

そうしたなか竹島は昭和四二年（一九六七年）までに五つの主要道路を整備している。また昭和四十年代後半から五十年代前期（一九七〇年～一九八〇年頃）までに集落の道幅を広げ、ほぼコンクリート舗装にしている。

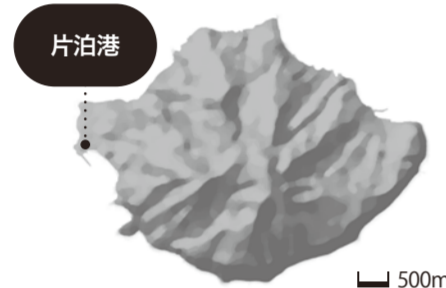
学校の門（竹島の道）江戸や明治の頃、三島各島の道は竹やぶを人が二人並んで歩けるほどだったとされる。戦後、三島村は主要道路から開発を進める。戦後十年経った昭和三〇年（一九五五年）では、竹島港から集落の道は狭い急坂で、Z字型の石階段だった。石階段は足型に凹んでいたらしい。集落の小道はぬかるみやすい粘土質だった。

竹島

日	月	火	水	木	金	土
30	31	1	2	3	4	5
旧 4/21	旧 4/22	旧 4/23	旧 4/24	旧 4/25	旧 4/26	旧 4/27
6	7	8	9	10	11	12
旧 4/26	旧 4/27	旧 4/28	旧 4/29	旧 5/1	旧 5/2	旧 5/3
13	14	15	16	17	18	19
旧 5/4	旧 5/5	旧 5/6	旧 5/7	旧 5/8	旧 5/9	旧 5/10
20	21	22	23	24	25	26
旧 5/11	旧 5/12	旧 5/13	旧 5/14	旧 5/15	旧 5/16	旧 5/17
27	28	29	30	1	2	3
旧 5/18	旧 5/19	旧 5/20	旧 5/21	旧 5/22	旧 5/23	旧 5/24



7



片泊地区六〇代 男性
「ビンゲは水温が下がると南へ移動してましたが、今はいつもでもいます。最近では沖繩のグルクン（タカサゴ）が釣れたりして、海温の上昇を感します。」

思い出話

奄美や屋久島地方で食用にする。三島村でも唐揚げなどにして食べる。唐揚げは、エラとワタを除いて身に切れ目をいれ、片栗粉をまぶして二度揚げする。白身で香ばしく甘みがある。刺身や焼きにもする。身が美味しいので、寿司にしたり個人で工夫して楽しめる。

夏に各島の堤防付近で見かける。餌はオキアミ、針にかけるオキアミは頭と尾を除き、撒き餌用にオキアミ一袋と、パン粉一袋を混ぜる。針の餌は撒いた餌が消えたら交換する。ビンゲは冬にかけて釣り人の冬の獲物であるクロ（メジナ）と入れ替わるが、秋口はクロの餌をついばんで嫌がられる。

学名は「オヤビツチャ」。スズメダイの仲間で、三島村では「ビンゲ」と呼ぶ。全長約二十cmで体に黒い帯があつて背中が黄色い。分布は千葉以南〜インド太平洋。水深十二mまでの岩礁やサンゴ礁域に生息する。

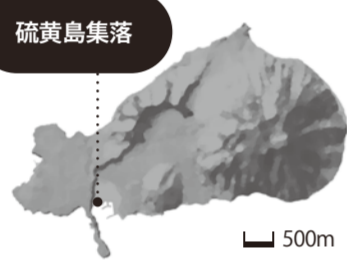
片泊

ビンゲの唐揚げ

日	月	火	水	木	金	土
27	28	29	30	1	2	3
				旧 5/22	旧 5/23	旧 5/24
4	5	6	7	8	9	10
旧 5/25	旧 5/26	旧 5/27	旧 5/28	旧 5/29	旧 5/30	旧 6/1
11	12	13	14	15	16	17
旧 6/2	旧 6/3	旧 6/4	旧 6/5	旧 6/6	旧 6/7	旧 6/8
18	19	20	21	22	23	24
旧 6/9	旧 6/10 海の日	旧 6/11	旧 6/12	旧 6/13	旧 6/14	旧 6/15
25	26	27	28	29	30	31
旧 6/16	旧 6/17	旧 6/18	旧 6/19	旧 6/20	旧 6/21	旧 6/22



8



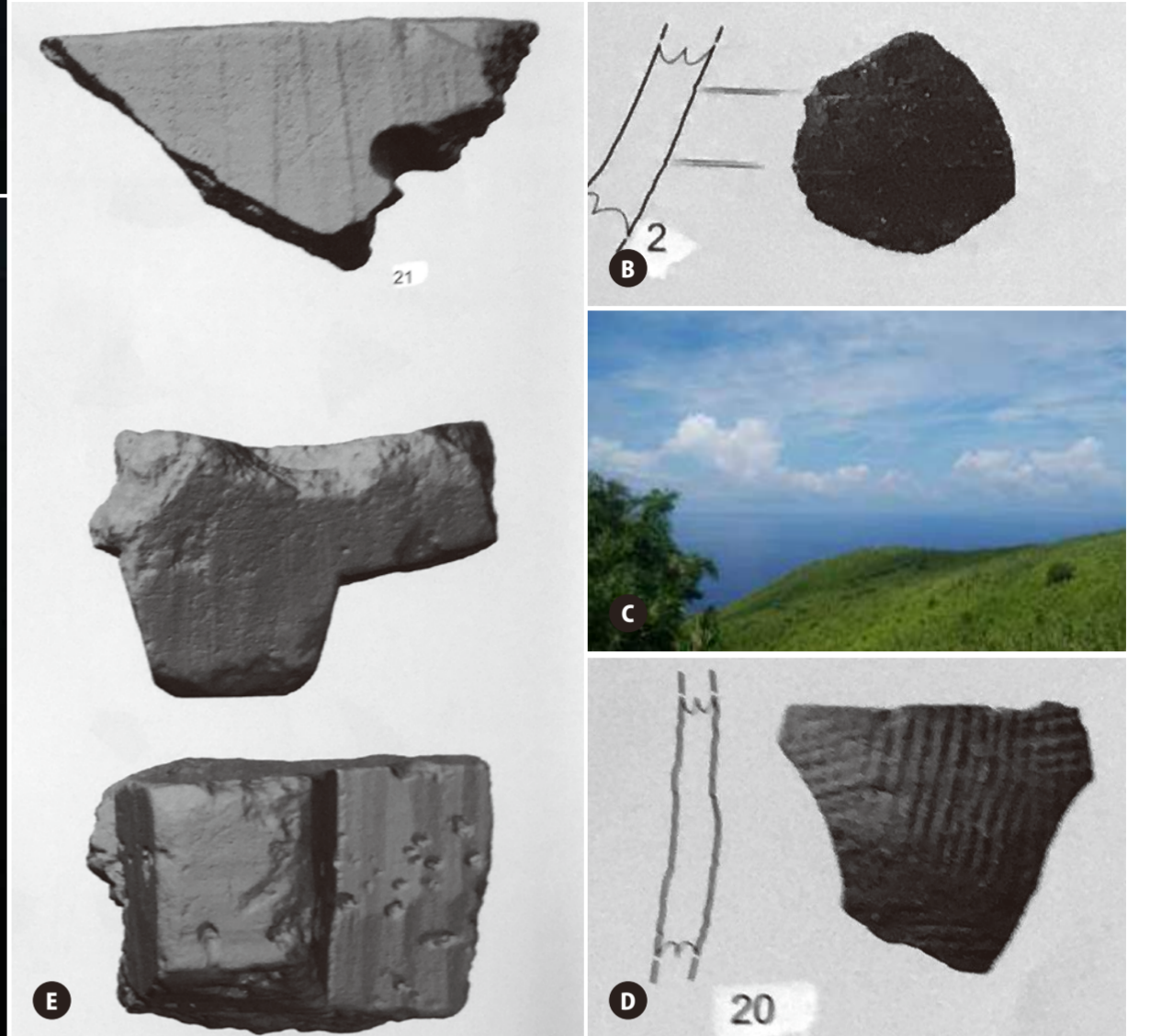
思い出話
「盆踊りは初盆の家の庭でも踊ります。戦後は初盆が多くて何度も踊るうち皆に上手になつていました。子供達は家々でふるまわれる乾き物めあてに踊りにくつていました。」
硫黄島地区七〇代男性

硫黄島
柱松と硫黄島の盆
柱松は、東は岩手から山梨、京都、大分、最西端の硫黄島まで、二十七府県に偏在する祭。水辺の祭場、柱を立て、柱の頂上に松明を投げて点火する型が多い。硫黄島では盆行事の一つで「ハンタマツ」と呼ぶ。柱松は流刑の僧、俊寛の霊を慰めるとされる。
柱は、琉球竹を全長九尋（ひこ）半、約二七mに男手で束ねて作る。柱の半身を立て、そばに短い柱も立てる。頂上の枯枝部分を点火する。材料の竹は五月に刈つて干し、盆前に束ねて海岸へ運ぶ。①この頃からご先祖の霊が通る道を開始して盆の支度を始める。三日～五日には仏壇を、一五日には墓も飾つてお供えをする。一五日は柱松の日で、②朝から柱を立て、両親が健在な男性「オヤモロコ」は漁に出る。夕方、オヤモロコは最長老の家で獲った魚で酒盛りする。宴会は「ウレシメメタ」を歌つて終え、④柱松の行事が始まる。柱に火を点けた人は柱の周りを左回りに三回まわる。⑤その後、盆踊りを二晩踊つて祭は終わる。

日	月	火	水	木	金	土
1 旧 6/23	2 旧 6/24	3 旧 6/25	4 旧 6/26	5 旧 6/27	6 旧 6/28	7 旧 6/29
8 旧 7/1 ● 新月	9 旧 7/2	10 旧 7/3	11 旧 7/4 山の日	12 旧 7/5	13 旧 7/6	14 旧 7/7
15 旧 7/8	16 旧 7/9 ● 上弦	17 旧 7/10	18 旧 7/11	19 旧 7/12	20 旧 7/13	21 旧 7/14
22 旧 7/15 ○ 満月	23 旧 7/16	24 旧 7/17	25 旧 7/18	26 旧 7/19	27 旧 7/20	28 旧 7/21
29 旧 7/22	30 旧 7/23 ● 下弦	31 旧 7/24	1	2	3	4



写真は、大里地区で出土した滑石製石鍋（かっせきせいしなべ）。かつて片泊小中学校にも残りの良いものがあったが、現在は所在不明。



片泊

片泊の遺跡

三島の各地区では昔から遺物の発見はあるが、専門家の調査がなく謎が多い。惜しくも資料が散逸や紛失する例も多い。幸い大里は調査がすすんだが、他の地区も調査すれば新しい発見があるかもしれない。その例に片泊の調査を一部紹介したい。

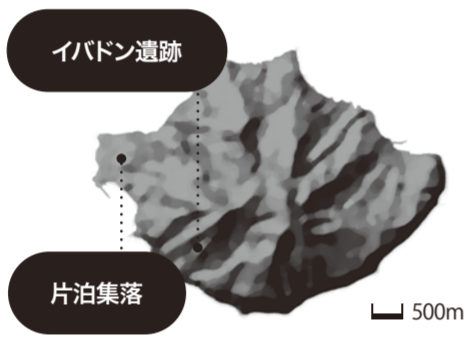
●片泊集落では縄文時代後期の石器と中世の陶器が採集されている。黒島はこの時代の遺物が多い。なかには奄美群島の徳之島の陶器「カムイヤキ」があった。この陶器は十一〜十四世紀に南西諸島を中心に広く流通しており、当時の交流の様子を示す。

近年●イバドン付近の牧場でも●カムイヤキや●滑石製石鍋など中世の遺物が採集された。三島全地区で見つかる滑石製鍋は、平安時代から中世に長崎で作られ沖繩方面へ送られており、当時、三島が本土と沖繩のルート上だったことがわかる。黒島は日宋貿易の痕跡がみつかるなど、予想以上に人や物や情報の往来があった可能性が高い。

思い出話

「年寄りが畑でみつけた珍しい石を、私が石器じゃないかと教えたら本当に石器でした。ここではよくある話です。」

片泊地区五〇代男性



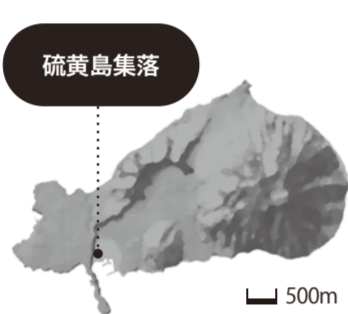
9

日	月	火	水	木	金	土
29	30	31	1	2	3	4
			旧 7/25	旧 7/26	旧 7/27	旧 7/28
5	6	7	8	9	10	11
旧 7/29	旧 7/30	旧 8/1	旧 8/2	旧 8/3	旧 8/4	旧 8/5
12	13	14	15	16	17	18
旧 8/6	旧 8/7	旧 8/8	旧 8/9	旧 8/10	旧 8/11	旧 8/12
19	20	21	22	23	24	25
旧 8/13	旧 8/14 敬老の日	旧 8/15	旧 8/16	旧 8/17 秋分の日	旧 8/18	旧 8/19
26	27	28	29	30	1	2
旧 8/20	旧 8/21	旧 8/22	旧 8/23	旧 8/24		

2017年



10



硫黄島地区 八〇代 女性

『当時、百歳位のお婆さん達の記憶を頼りに再現しました。せつかく息を吹き返した文化なので、継承されればよいのですが。』

思い出話

【調理方法】①実を使う前一晩水につける。②ふやかした実を鍋に、たっぷりの水で一煮立ち。重曹を入れ混ぜると、あずき色に色づく。実が指でつぶれるまでトロ火で煮る。③実が色つき、やわらかくなれば汁ごとミキサーにかけてペースト状に。④ペーストと米粉をこねて、砂糖を適量混ぜて蒸すと車輪梅団子の完成。

【下準備】①十、十一月頃に枝ごと実を収穫。②水をはった鍋で枝ごと煮る。③指でつぶして果皮がとれたら鍋からあげる。④白で枝ごとついて外皮をはがす。途中、外皮のとれ具合を見たり枝を除く。⑤外れた実を水で洗い、洗皮付の実を残す。⑥一週間ほど天日干しで風にさらす。⑦乾燥した実は白でついて渋皮を外す。写真では瓶の腹で代用。

車輪梅(シャリンバイ) 車輪梅はバラ科の常緑低木。本州南西部〜九州の海岸に自生する。食用にしないが、硫黄島のみ唯一実を使って団子を作る。戦後、食糧が増えて伝承は途絶えたが、七〇年代に郷土料理として見直される。

硫黄島

日	月	火	水	木	金	土
26	27	28	29	30	1 旧 8/25	2 旧 8/26
3 旧 8/27	4 旧 8/28	5 旧 8/29	6 旧 9/1 ● 新月	7 旧 9/2	8 旧 9/3	9 旧 9/4
10 旧 9/5	11 旧 9/6 スポーツの日	12 旧 9/7	13 旧 9/8 ● 上弦	14 旧 9/9	15 旧 9/10	16 旧 9/11
17 旧 9/12	18 旧 9/13	19 旧 9/14	20 旧 9/15 ○ 満月	21 旧 9/16	22 旧 9/17	23 旧 9/18
24 旧 9/19	25 旧 9/20	26 旧 9/21	27 旧 9/22	28 旧 9/23	29 旧 9/24 ● 下弦	30 旧 9/25
31 旧 9/26						



大里

黒島みかん

大里には、酸味とほどこい甘みで独特な風味の「黒島みかん」がある。青い実は果汁を刺身にかけたり醤油に混ぜて使う。

三島村誌には、大里の中村与太郎氏の祖先が黒島みかんを初めて植えたところ。海岸に漂着した桐箱に種が一粒入ったという。このみかんは大正中期に枯れて黒島みかんはそこで絶えたようだが判然としない。他に、みかん栽培を奨励した南大隅の武将、綱寝重長(ねじめしげたけ)が一五六六年に屋久島方面への出兵で竹島に持ちこんだ説。十島の中の島に同種がある説などあるが、どれも明確な根拠はない。

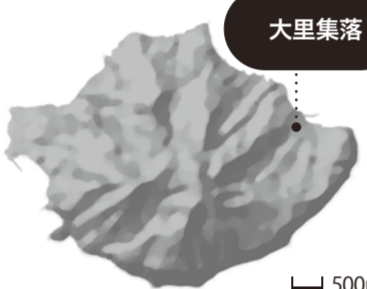
十一月の収穫期には、渡り鳥が来て実を食べ尽くすため、収穫は鳥と競争になる。黒島みかんは常温で痛むので専ら自家用で消費する。近年は大里の女性有志が黒島みかんのシフォンケーキを生産しており、余ったみかんは買い取り、冷凍して有効活用している。

思い出話

「小学生の頃、兄弟といろりを囲んでみかんを食べました。そのときに房を二つほど口に入れて種の数のあてっこをしました。勝てば、負けた人達から勝った種の数だけみかんの房をもらいます。当時みかんは貴重な食糧でした。」

大里地区六〇代 男性

大里集落

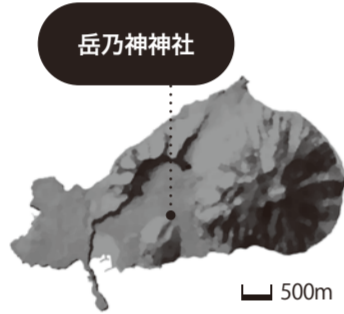


11

日	月	火	水	木	金	土
31	1 ● 旧 9/27	2 ● 旧 9/28	3 ● 文化の日 旧 9/29	4 ● 旧 9/30	5 ● 新月 旧 10/1	6 ● 旧 10/2
7 ● 旧 10/3	8 ● 旧 10/4	9 ● 旧 10/5	10 ● 旧 10/6	11 ● 上弦 旧 10/7	12 ● 旧 10/8	13 ● 旧 10/9
14 ○ 旧 10/10	15 ○ 旧 10/11	16 ○ 旧 10/12	17 ○ 旧 10/13	18 ○ 旧 10/14	19 ○ 満月 旧 10/15	20 ○ 旧 10/16
21 ○ 旧 10/17	22 ○ 旧 10/18	23 ○ 勤労感謝の日 旧 10/19	24 ○ 旧 10/20	25 ● 旧 10/21	26 ● 旧 10/22	27 ● 下弦 旧 10/23
28 ● 旧 10/24	29 ● 旧 10/25	30 ● 旧 10/26	1	2	3	4



12



硫黄島地区四〇代男性

思い出話

「実は子供の頃は苦手な祭りでした。長く歩くと話せない。墨塗りの顔は乾いてつっぱる。後でお菓子がもらえても苦手でした。」

熊野神社に着くと③社前で輪になって時計回りに三度回る。①そして枝を下に向け神様を降ろして神事は終わる。なお、現在は小中学校に通う男子が主に参加する。年齢による墨の塗りわけは途絶えている。

当日、二〜八歳までの子は墨で目の周りに円を、①九〜十三歳までは顔全体に墨を塗る。まぶたがひとえの子は円を二つ、ふたえの子は二重に描く。次に②岳乃神社をお参りして、付近で刈ったヒサカキの枝を手に熊野神社へ向かう。枝をもった子は話をしてはならない。また枝には神様が乗っているの、下に向けたり転んではならない。道中、他の神様を四度横切る。その度に案内役が太鼓で合図して子供たちは「わがむれ(村)こそよたのしむれなんやれ」と唱える。

硫黄島

硫黄島の霜月祭

旧暦十一月五日の祭。硫黄島では主に十三歳以下の男児が、稲村岳麓の岳乃神(たけんかん)神社から集落の熊野神社まで、神様をお連れする。

日	月	火	水	木	金	土
28	29	30	1 ●	2 ●	3 ●	4 ● 新月
5 ●	6 ●	7 ●	8 ●	9 ●	10 ●	11 ● 上弦
12 ○	13 ○	14 ○	15 ○	16 ○	17 ○	18 ○
19 ○ 満月	20 ○	21 ○	22 ○	23 ○	24 ○	25 ○
26 ●	27 ● 下弦	28 ●	29 ●	30 ●	31 ●	1 ●